



令和 8 年（2026 年）3 月 4 日 公表
 令和 7 年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ムシガレイ（日本海南西部系群）

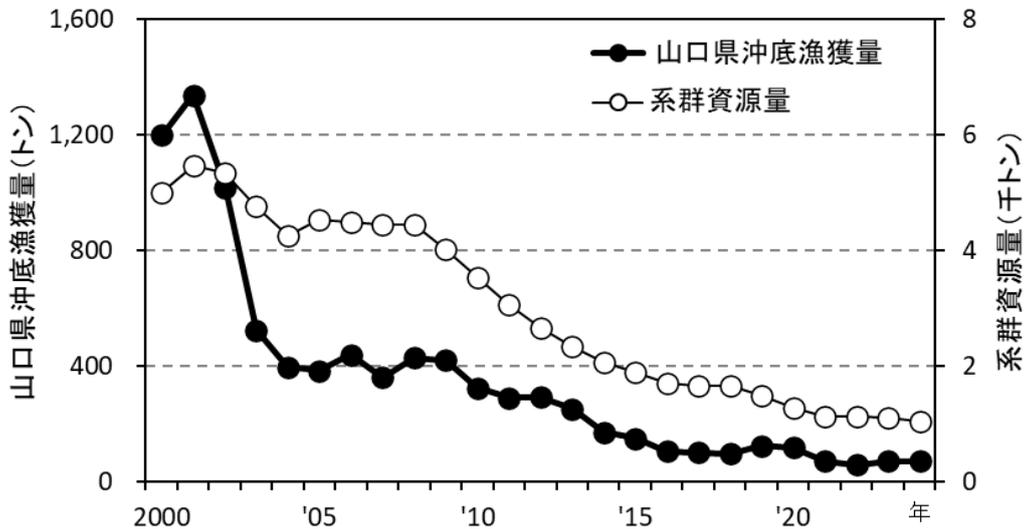


図 山口県沖合底びき網漁業ムシガレイ漁獲量（下関漁港水揚量）及び日本海系群ムシガレイ資源量（(国研)水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ムシガレイは主に沖合底びき網で漁獲され、沿岸域では小型底びき網でわずかに漁獲される。沖合底びき網による主な漁獲サイズは全長 16～25cm（2～3 歳）である。

【漁獲量】山口県沖合底びき網漁業の漁獲量は、2001 年には 1,338 トンであったが、その後急激に減少し、2004 年には 397 トンになった。その後 2005 年以降 2009 年までは 400 トン前後で推移していたが、その後減少し、2024 年には 70 トンとなった。

【資源状態】資源量は 2001 年に 5,463 トンのピークがあり、その後 2004 年にかけて減少した後、2008 年まで約 4,500 トンで横ばいであった。その後は減少に転じ、2024 年には 1,042 トンと推定された。

2024 年の親魚量 (SB) は最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB_{msy} : 目標管理基準値) を下回った。また、2024 年の漁獲圧 (F) は MSY を実現する漁獲圧 (F_{msy}) を下回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2024 年漁獲量 (千トン)	MSY (千トン)	2024 年親魚量 (千トン)	目標管理基準値 (千トン)	限界管理基準値 (千トン)	禁漁水準 (千トン)
0.2	1.5	0.8	4.0	1.9	0.3